

## 天声人語

埼玉県東松山市に住む溝井喜久子さん(84)の毎日の楽しみはツイッターである。庭に咲いた花、日々の食卓、いただきもの | 。8年間に投じた「つぶやき」は23万件を超えた▼そうした日常の断章のみならず、子の世代に依存する高齢者への苦言も率直につづる。出版社の目をひき、えりすぐりのつぶやきを集めた書籍が刊行された。「何がいいかなんて終わってみないとわかりません。」など2冊だ▼ページを繰って目にとまつたのは、戦時の記憶や実感のつぶやきである。〈戦時中、産めよ増やせよと言われた。これは子供のこと。特に男子。戦争に駆り出す要員として〉(徴兵制度ができれば、また人の命が安く集められる。そんなことにならないように考えよう)▼戦争を始めたがる国家、国民を大切にしない国家。国家の持つ危うい本能が、現代の人々には見えていないのではないか。焦燥の思いが行間からひしひしと伝わる▼投稿を追う「フォロワー」はいまや9万4千人。戦中の思いを書くと数が際立つて増えたといふ。ツイッター世代には新鮮だったらしい。世代を超えて記憶をともにする効果を感じる▼戦争を知らぬ世代が、日本を戦争のできる国へ造りかえようとしている昨今、戦禍に耐えた世代の直言はひときわ重みを増す。〈今の社会、単純に武力行使を唱えている人がかなりいて、それらの人を支持する人がかなりいる(略)前の戦争の時もそういう風潮で、慎重派は追われて、武闘派が戦争始めて敗戦〉

2018・8・15